

# ブリ種苗放流技術開発事業\*

中地 良樹

## 目 的

社団法人日本栽培漁業協会から委託されたブリ種苗放流技術開発調査事業で、本県沿岸域におけるブリの満1歳以降の分布、生態を解明するため、標識放流と漁獲実態等の関連調査を継続して実施している。

## 方 法

### 1 標識放流調査

標識放流は、1998年1月14日に和歌山県西牟婁郡白浜町沖にメジロ級（平成8年産モジャコ種苗からの養殖魚）262尾を実施した。この放流群を「'97白浜放流群」と呼ぶ。

### 2 関連調査

加太、串本の2漁協で銘柄別漁獲量調査、加太、湯浅、白浜3港（白浜、富田、椿の3支所）3カ所での標識率調査を実施した。

## 結 果

### 1 標識放流調査

標識魚の再捕は、平成8年度放流群（'96白浜放流群）および平成9年度白浜放流群（'97白浜放流群）だけでみられ、平成7年度以前の放流群の報告はなかった。

#### 1) '96白浜放流群（1997.3.21 210尾放流、養殖魚 図1）

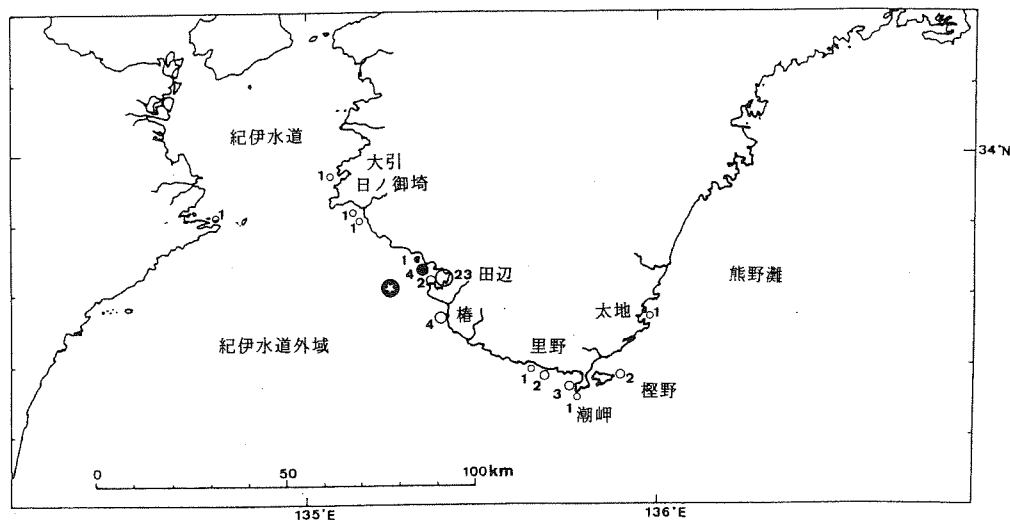


図1 '96白浜放流群（'97.3.21 215尾、メジロ級養殖魚）の再捕場所  
黒丸：前年度報告、白丸：追加報告 うち田辺湾2尾中1尾は前年度報告含  
再捕合計48尾、再捕率22.9%

\*ブリ種苗放流技術開発事業費による。

追加報告は、20件で41尾の再捕があり、再捕合計48尾で再捕率22.9%となった。放流直後（一週間）は放流地点付近の刺網・釣り及び曳縄による漁獲が15尾と多く、放流海域付近に滞留していたと推察される。その後、再捕は5月上旬（放流49日後）まで断続的にみられ、放流47日後の徳島県阿南市椿泊の定置網による1尾を除いて、紀伊半島西岸の日ノ御崎～潮岬沿岸部の定置網による再捕が多い。特に、本放流群では北上移動の個体がみられているのが特徴的であった。5月中旬以降、再捕は単発的となり放流135日後の1997年8月3日に太地町地先の定置網で1尾、放流214日後の1997年10月21日に檜野埼沖の釣りで1尾の2件、2尾が熊野灘で漁獲された。放流225日後の1997年11月1日に潮岬シアイ瀬の釣りを最後に報告はみられていない。

本放流群の漁法別再捕は、定置網11尾、刺網6尾、曳縄4尾、地曳網1尾となった。

2) '97白浜放流群（1998.2.22 262尾放流、養殖魚 図2）

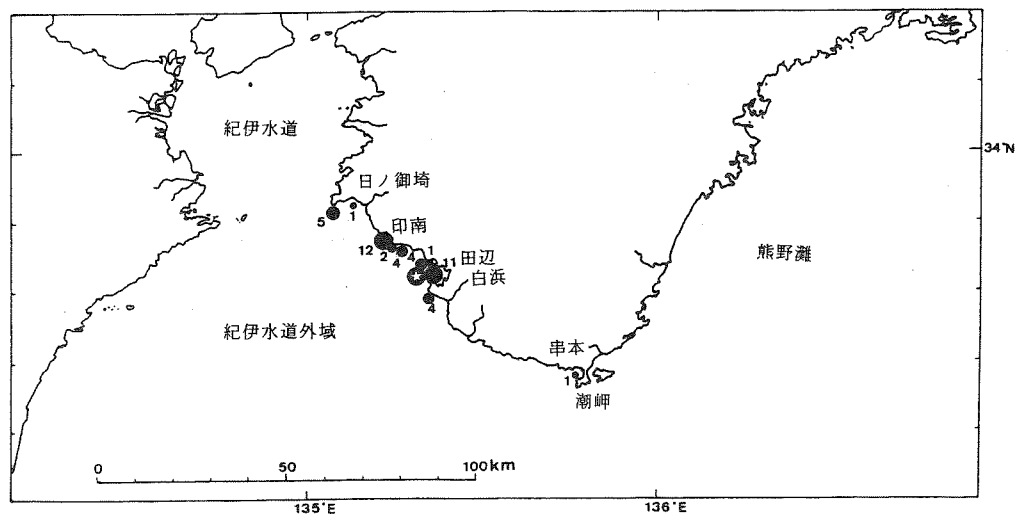


図2 '97白浜放流群（'98.1.14 262尾、メジロ級養殖魚）の再捕場所  
再捕合計 45尾、再捕率 17.2%

標識放流は1998年1月14日に'96白浜放流群とほぼ同地点で実施した。本放流群の再捕合計は45尾で再捕率17.2%となった。再捕は放流2日後から約40日ほぼ連続してみられた。放流39日後の1998年2月22日に串本町潮岬沿岸の定置網による1尾を除いてすべて放流地点周辺域及び日ノ御崎周辺での再捕であり北上移動となった。'96白浜放流群でも一部が北上移動しているが、これまでの放流結果から殆ど北上移動がみられていないことから本放流群の北上移動は異例といえよう。このような移動要因として、放流前の1997年12月頃から白浜町瀬戸崎～印南沖で釣りによるメジロ漁が行われており、放流魚はこの天然群に合流したと推察される。

本放流群の漁法別再捕状況は釣り27尾、刺網16尾、曳縄と定置網各1尾となった。

2 関連調査

1) 銘柄別漁獲量調査

加太：ツバスは前年の33.0%、0.2tと大きく下回った。ハマチは前年の2.7倍、3.4tと大きく上回った。メジロは前年の1.3倍、11.0tであった。ブリ類合計では前年の1.4倍、14.7tであった。

串本：ツバスは極めて不調であった前年の28.2倍、1.3tと大きく上回った。近年皆無であった

まき網による漁獲がみられた。ハマチは前年並みの12.2tであり、ツバス同様にまき網による漁獲がみられた。メジロは前年の79.2%、53.4tとやや下回った。釣りによるメジロの漁獲は前年の2倍、30.0t、定置網によるそれは50%、23.4tとなった。ブリは前年の23.2%、4.4tであった。この要因としては定置網による漁獲が前年の2.3%、0.4tと極めて低調であった。

## 2) 漁獲尾数調査

加太：ツバスは295尾と極めて低調であって9月中旬から10月上旬にほぼ全量にあたる漁獲がみられた。ハマチは3,266尾で前年を大きく上回った。漁獲は10月中旬～12月上旬、4月上旬～5月上旬であり、ピークは11月上旬の505尾であった。メジロは3,731尾で前年を上回り、9月中旬～10月下旬に3,244尾のまとまった漁獲があった。

湯浅：ツバスは釣りと定置網で161尾の漁獲があり前年の約50%と下回った。ハマチは559尾で釣・定置網ともに前年を大きく下回った。特に定置網による漁獲は前年比42%の254尾であった。メジロは前年をやや上回る278尾の漁獲があり、定置網と釣りの漁獲割合は1.3：1となって定置網の漁獲ウエイトが小さくなった。

白浜3港：ツバスはわずか43尾の漁獲で前年を大きく下回った。ハマチは4,077尾で前年をやや下回った。しかし春季の椿定置網による漁獲が2,985尾と極めて多く、前年みられなかった夏季（7～8月）に富田浦・椿の2支所で漁獲がみられた。メジロは12月中旬～1月下旬の漁獲が多く、前年の10.8倍8,397尾と大きく上回り'88年以降最高となった。特に富田浦・椿の2支所がそれぞれ3,000尾近く漁獲しているのが特徴である。場所別では、前年低調であった富田浦支所で、当歳魚（ツバス・ハマチ）・メジロの漁獲が白浜本所を上回ったのが特徴である。椿は釣りによるメジロの漁獲もみられるが定置網の漁獲ウエイトが大きい。

## 3) 有標識率調査

加太・湯浅中央では標識魚は確認されなかった。標識魚の確認されたのは、白浜3港で'96白浜放流群3尾（メジロ）、'96徳島放流群2尾（ブリ）と里野で'96白浜放流群1尾である。有標識率は白浜3港でメジロ0.04%、ブリ1.4%、里野でメジロ0.01%である。その他の調査場所では標識魚は確認されていない。